

# インフォメイトしょ

Vol.25  
February  
2020

## 【特集】

「医療チーム」から地域での「ワンチーム」へ  
術後麻痺を減らすために  
～術中神経モニタリングシステムについて～精神科リエゾンチームについて  
緩和ケア研修会を開催しました

一次脳卒中センター(PSC)に認定されました

病棟再編成による病室等の変更について

今年の干支は「子」です。これは「ア」と「一」で構成されています。すなわち十二支の干支が一回りして「終了」し、新たな干支が「一」から始まる」ことを意味しています。正に偶然とは言え、平成の時代が終わり本格的な令和の時代が始まることになります。

さてわが国では、超高齢社会に入り、5年後には団塊の世代がすべて75歳以上のはこの後期高齢者が最大になる2040年問題などを目前にして、さまざまな医療制度改革が行われつつあります。具体的には、病院の機能を明確にし、連携して適切な医療を提供する地域医療構想の構築、在宅医療を中心とした町、丁単位での地域包括ケアシステムの推進、医師の偏在対策、そして働き方改革が提唱され、進みつつあります。



## 「医療チーム」から地域での「ワンチーム」へ

公立昭和病院 院長 上西 紀夫

明けましておめでとうございます。年号が令和になりましたが、市民の皆様には佳いお年をお迎えのことと思います。また、最初の正月を迎えたが、市民の皆様には佳いお年をお迎えのことと思います。

さてわが国では、超高齢社会に入り、5年後には団塊の世代がすべて75歳以上の後期高齢者になる2025年問題、さらにこの後期高齢者が最大になる2040年問題などを目前にして、さまざまな医療制度改革が行われつつあります。具体的には、病院の機能を明確にし、連携して適切な医療を提供する地域医療構想の構築、在宅医療を中心とした町、丁単位での地域包括ケアシステムの推進、医師の偏在対策、そして働き方改革が提唱され、進みつつあります。

ます。個々の具体的な内容については今後、機会があればお知らせをしたいと考えていますが、その基本となる思いは「ワンチーム」と言えます。

院内における、医師、看護師、薬剤師、各種技師などによる「チーム医療」の考え方についてはご承知のことと思います。しかし、これらの病院は院外においても自身の役割を明確にして、これまで以上に連携し、病院同士でチームを構成して地域での適切な医療を提供すること、町では介護やボランティアを含めた方々と一緒にチームを構成して高齢者などを支えること、そして医療側と市民の皆様との間のコミュニケーションをさらに緊密にし、相互理解を深め、適切な医療、介護の維持、発展を協働して推進することが求められています。つまり、様々な場面での「ワンチーム」としてのつながりが必要で、その時代が始まることになります。当院も市民の皆様と一緒にになって地域のために最大限の努力をしたいと思っており、ますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

## 地域医療連携室だより!

### 地域の先生方に向け、アンケート調査を実施しています!

市民の皆様や、医療関係者の方々の中には、当院に「受診してみたいけど、なかなか診てもらえない」と感じたり、「もう少し、利用者の立場を理解してほしい」などを感じたりしたことがありませんか?

市民のための公立病院として、職員一同、日々努力に勤めていますが、多くの方の症例を診ている中には、行き届かない面や、気づかない面もあるかと思います。

患者さんなどにつきましては、これまでも、改善に向けて『患者満足度調査』や『提案箱』を設けて意見をお聞きしてきましたが、地域医療連携室としては、医療連携をしてくださる地域の先生方にも意見を伺い、当院に対する問題点などを指摘していただこうと考えました。

まず、事業を調査機関に委託し、医療連携してくださる先生方に①アンケート調査を実施させていただきました。また、医師会長や一部の医療機関には、②調査機関が直接面接に伺いました。

【地域の先生】

忙しいとは思うけど、患者さんを紹介した時は、なるべく早く、受けてくれると助かるね!

【公立昭和病院地域連携部長】

皆様の意見を参考に、当院の体制を整備します。

《公立昭和病院の理念と方針》

【理念】

一人ひとりの命と健康を守り、医療の質の向上に努め、熱意と誇りを持って地域社会に貢献することを目指します

【方針】

- 1 地域医療支援病院として地域連携を推進します
- 2 科学的根拠に基づいた医療を提供します
- 3 急性期病院として高度専門医療、救急医療を実践します
- 4 がん拠点病院としてがんの予防から治療までを担います
- 5 信頼される優れた医療人を育成します
- 6 健全な病院経営に努めます

公立昭和病院

〒187-8510 東京都小平市花小金井8-1-1  
tel.042-461-0052 fax.042-464-7912  
<http://www.kouritu-showa.jp/>

当院は、東京都多摩地域の小金井市、小平市、東村山市、東久留米市、清瀬市、東大和市、西東京市の7市で構成されている昭和病院企業団により運営されています。標榜診療科は全31科。休日・夜間救急医療をはじめ、高度・専門医療、予防医学的事業、地域医療センターとして高い機能を発揮して、地域の医療需要と信頼に応えています。

Access

【発行】公立昭和病院 【編集】広報委員会

~1~

~4~

## 術後麻痺を減らすために ～術中神経モニタリングシステムについて～

整形外科 医師 藤井 賢吾

脊椎手術では、それぞれの発生率は低いものではありますが重篤な合併症が複数あるため、「合併症をいかに防ぐことが出来るか」が良い治療につながると考えています。

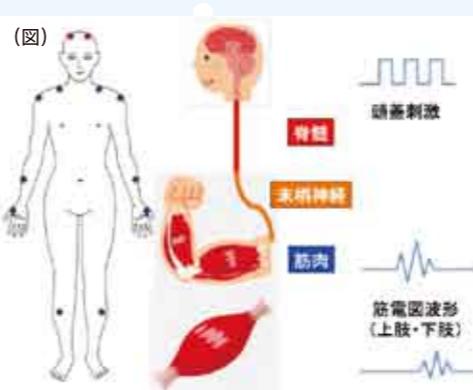
可能な限り減らしたい合併症の一つに、新たな神経障害(運動麻痺や感覺障害など)があります。手術では神経を直接治することは出来ませんので、神経が回復しやすい状況を作ること(圧迫を解除する、あるいは圧迫の原因となる不安定性を取り除くこと)が手術の目的となります。神経は一度ダメージを受けると回復しにくいという大きな特徴があり、これは比較的回復力の強い骨、筋肉、靭帯といった整形外科で扱う他の組織との大きな違いです。

一方で脊椎手術では、その神経を直接みながら周囲の組織を操作する場面が多く、外科で扱う他の組織との大きな違いです。また、術前に神経症状の変化について見込みを立てるのが困難なことも、脊椎手術の課題だと考えています。

術中の患者さんは眠っている状態なので、神經障害が生じても痛い・しびれる・動かないといった症状を確認できないため、術後に麻酔が覚めて手足が動かせることが確認するまで神經障害が発生してもわからないという問題点がこれまでありました。当院では、術中神経障害を低減する目的から術中神経モニタリングシステムを導入し、必要と思われる症例では積極的に行っています。(図)

術中神経モニタリングシステムは麻酔前に行つた手術手技を中止したり、やり直すことなどで神経へのダメージを最低限に抑えることが可能になります。近年、日本脊椎脊髄病学会、日本整形外科学会、日本臨床神経生理学会などを中心として、この術中神経モニタリングシステムの使用を推奨する動きが大きくなっています。

術中神経モニタリングを行つていても、すべての神経障害を予防できるわけではありませんといふことで、波形が麻酔や全身状態の影響を受けやすいうことが問題点ですが、できるだけ安全な手術を行うための工夫の一つとして、当院では術中神経モニタリングを導入し、活用しています。



## 緩和ケア研修会を開催しました

麻酔科医長・緩和ケアチーム 勝田 友絵

令和元年11月10日(日)に、当院にて緩和ケア研修会を開催し、当院および近隣医療機関から27名(医師24名、歯科医師1名、薬剤師1名、看護師1名)が受講しました。

国によるがん対策推進基本計画(平成19年)により、がん診療に携わる全ての医師が緩和ケアの基本的な知識を身につけることを目的としてこの研修会は始まりました。全国のがん診療連携拠点病院を中心開催され、すでに述べ10万人以上の医師が受講しています。

がんと診断された患者さんとそのご家族はさまざまなかな場面でつらさやストレスを感じます。緩和ケアは、身体と心の苦痛を和らげて生活の質(QOL)を保つことを目的としています。がんが進行したいざれの時期においても、がん治療と並行して苦痛に応じて受けられるものです。

研修会の内容の一部をご紹介します。まず、がんの療養中に生じやすく日常生活を妨げる痛み・吐き気・息苦しさ・不安・抑うつななど心身の苦痛について、事前学習し基本知識を身につけます。



がんを伝えるのは難しい



グループで意見を出し合います

## 精神科リエゾンチームについて

心療内科 部長 升田 優美子

【リエゾンとは】

「リエゾン」とは、フランス語で「連携」や「つなぐ」を意味する言葉です。様々な入院診療科と連携しながら、身体疾患に伴うあらゆる心理的問題に協力して対応する体制を「精神科リエゾン」と言います。

【精神科リエゾンチームのご紹介】

当院では、多職種からなるチームとして「精神科リエゾン」サービスにあたっています。主なメンバーをご紹介します。

○心療内科医師(精神科指定医の資格をもっています)

○公認心理師(一般に臨床心理士が知られていますが、国家資格が新設されました)

○認知症看護認定看護師(認知症に限らず、ご高齢の患者さんへの対応を支援しています)

○心療内科医師(精神科指定医の資格をもっています)

○心療内科医師(精神科指定医の資格をもっています)

○心療ソーシャルワーカー

○作業療法士

○薬剤師

○医療ソーシャルワーカー

○身体疾患に伴う様々な精神症状をもつ方(身体疾患そのものの精神症状、治療の副作用による精神症状など)

○自傷や自殺企図による身体治療のために入院された方

○その他精神医学的評価や治療を要する方(身体疾患による精神症状など)

○その他の精神医学的評価や治療を要する方(身体疾患による精神症状など)

○身体疾患に伴う様々な精神症状をもつ方(身体疾患そのものの精神症状、治療の副作用による精神症状など)

○自傷や自殺企図による身体治療のために入院された方

○その他精神医学的評価や治療を要する方(身体疾患による精神症状など)

○身体疾患に伴う様々な精神症状をもつ方(身体疾患そのものの精神症状、治療の副作用による精神症状など)

○その他の精神医学的評価や治療を要する方(身体疾患による精神症状など)

○身体疾患に伴う様々な精神症状をもつ方(身体疾患そのものの精神症状、治療の副作用による精神症状など)

○その他の精神医学的評価や治療を要する方(身体疾患による精神症状など)

## 病棟再編成による病室等の変更について

当院では、2025年問題や2040年問題を控えた超高齢社会の中において、患者さんとそのご家族が今後も安心して医療を受けられるように、令和2年1月1日より病棟再編成を行っています。現在の病棟の状況は左記QRコードより確認ができます。(当院ホームページ「各階のご案内」へ)

各階のご案内は→ちら→



## 一次脳卒中センター(PSC)に認定されました

当院は日本脳卒中学会より、一次脳卒中センター(Primary Stroke Center: PSC)に認定されました。

PSCの認定要件としては、24時間365日、脳卒中患者を受入れ、t-PA静注療法を含む急性期診療を開始できる。

○多職種からなる専属の脳卒中チーム(脳卒中ユニット)があるなどが挙げられています。

当院の脳神経外科では、24時間体制で救急疾患に対応するとともに、東京大学脳神経外科関連施設として、あらゆる脳神経外科疾患に対応しています。特に脳血管障害は、豊富な症例数を誇り、良好な治療成績を挙げています。



その揺れ動く心模様についての話を聴きました。

緩和ケアのすそ野を広げるために、このような研修会を毎年開催しています。

外来・入院にて、がんの苦痛がありお悩み

の患者さんをおもに、地域のがん診療の拠点として、さらに貢献できる病院を目指して

いきたいと考えています。

公立昭和病院は地域のがん診療の拠点として、さらに貢献できる病院を目指して

いきたいと考えています。

な医療者へご相談ください。これからも

な医療者へご相談ください。これからも

な医療者へご相談ください。これからも